

太宰府市地域福祉に関する分野別課題調査（生活困窮者支援分野）

集計結果

●調査概要

○回収結果

配布件数（件）	回収件数（件）	回収率（％）
7件	7件	100.0%

※以下、回答内容については、調査票にご記入の表現をそのまま使用させていただいております。

I. 高齢者層の低所得などによる生活困窮者の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

NO.	内容	
1	現状・課題	<p>(現状など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年金のみでは生活が苦しく、働きたくても年齢的、身体的、能力的な問題があるため業種も限られ、思うような収入を得ることができずに医療や食に困っている状況がある。 <p>(問題や課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産年齢的期に一定以上の収入が得られる仕事に就いていないことが大きな要因と考えられる。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> 就労の斡旋。 日常生活上の相談支援。 生活保護申請の補助。 家計改善の支援。 地域とのつながりをつくる取り組み。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 収入、貯蓄のなさが原因。 公的年金の不十分さがある。厚生年金をかけられなかった。 社会的孤立をして家族形態の変化で一人暮らしや高齢者での二人暮らしの方々。 団塊の世代で生活保護を受け入れられない。恥だと言われる。 高齢者の二人暮らしで妻の年金が低く、夫の年金だけでは生活できない。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> 介護施設の増加、生活保護の支援、高齢者保険料の見直し（無料化）。 私的年金の拡充。
3	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 外出困難者への支援 <p>身体機能低下などにより、外出の際は公共交通機関やタクシーの利用が必要となってくるが、現状の保護制度では医療機関受診の際の通院費などへの対応に限られており、買い物の際の交通費は自己負担となってくる。とくし丸の利用（商品単価が高いとの評判あり）、介護ヘルパーの利用（利用者からは「自分で商品を選びたい」との意見もあり、ヘルパーとの関係性悪化にもつながりかねない）などの提案に限られている。</p>
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> 乗り合いタクシーの整備、ICTの活用（スーパー内の在庫をリアルタイムで確認できるなど）など。

NO.	内容	
4	現状・課題	・行政手続きなどにおける支援者不足 年金手続き、各種減免手続きなどを行う際の支援者（付き添いや代行手続き者など）がいないため、本来なら利用できる（受給できる）ものが利用できないままになっている。
	解決策	
5	現状・課題	・地域によっては買い物に行く際、歩いて行ける距離ではない、また歩行が困難や不自由なため、その度にタクシーを利用しており生活費をかなり圧迫していると思われる。
	解決策	・市で買い物支援を行う事業（やり方はまだ浮かんでいません）などがあればと思う。
6	現状・課題	・単身で生活されていることで、支援をしてくれる人が近くにいない。家計管理ができていないことが多い。
	解決策	・家計相談を行い、把握してもらうことで今後の生活を見直していくなど。
7	現状・課題	・年金受給者も、自身の年金だけでは生計を維持できていない（生活保護対象者となる）。
	解決策	
8	現状・課題	・困窮者がその現状について相談することができないことがあげられると思います。生活保護受給額が年金受給と差が小さい層の方の生活が大変厳しい。
	解決策	・高齢者の方が相談しやすい機会を多く持てるようにすること。安心して生活できるためのセーフティーネットがもっと大きいと良いと思う。

Ⅱ. 壮若年者層の低所得などによる生活困窮者の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

NO.	内容	
1	現状・課題	(現状など) ・仕事はしているが安定していないため、慢性的な困窮状態にあるケースが多い。 ・地域や人とのつながりがなく孤立している（相談する方もいない）。 ・日々の生活を送るのがやっとで貯蓄する余裕がなく、子どもの進学費用も負担できない。 (問題や課題) ・安定した収入が得られる就職活動。 ・子どもの生活保障及び学習環境の提供。
	解決策	・就労の斡旋。 ・早期の相談支援。 ・情報の提供（情報の提供方法に工夫が必要）。
2	現状・課題	・貧困の連鎖。 ・失業、不安定な勤務形態で働く。 ・寝たきりの病状、虚弱。
	解決策	・就労による自立。

NO.	内容	
3	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 支援者の不足 これまで支援（精神的、金銭的含む）を行っていた家族（特に両親）が高齢などの理由により関わりが困難（ときには拒否）になり、支援者がいない状態に陥る対象者がいる。公的な支援者につなげることが必要と思われるが、ひきこもりや障がい認定を持っていない人など、福祉サービスにつなげるまでの支援者がいない状況。ケースワーカー1人で支援できる範囲を超えている。
	解決策	
4	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 小さい頃からひきこもりや登校拒否が多いため、学力が低かったり、技術が全くないことが多い。また、人見知りも多くいる。そのため自信喪失や馬鹿にされるとの恐怖心で外に出る（就労含む）ことをためらっているケースもある。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> WO で研修会やサロンなどを開催し、まずは家から一歩出るように仕向けることが必要とされる。
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 精神の病で、仕事を転々としている。契約社員、派遣社員での就労をしている。 お金がないので、病院受診ができていない。 生活費の借金があり、返済が家計を圧迫している。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> 債務整理の提案を行い、弁護士相談同行。
6	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> 就労できていない、就労が続かないという状況や、正規雇用の機会が少ないなど。就労し、安心して生活をしていこうという思いを若者に持ってもらえるような社会になっていない。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> 若者の雇用の促進と収入の安定。

Ⅲ. ひとり親家庭の低所得などによる生活困窮者の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

NO.	内容	
1	現状・課題	<p>(現状など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの食事や勉強道具、学習塾などへの費用に負担を感じている。 <p>(問題や課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 目の前の生活が精一杯である。 受けられるはずの支援情報などが届いていない。 慢性的に困窮状態であるため突発的な支出に対応できず、些細なきっかけで困窮の状態が深刻化する。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが気軽に歩いて通える居場所をつくる。 地域内で服のリサイクルなどがあると良い。 学校、地域、行政であらゆる支援情報をできる限り共有し、各家庭に届きやすくする。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親、特にシングルマザーは就労時間が限られている。仕事、子育て、家事との両立がある。 男性と女性では収入の差がある。 養育費が支払われていない。 小さい子どもがいると、なかなか正社員での雇用がされない。

NO.	内容	
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童扶養手当、児童手当の拡充。 ・家事や育児のサポート支援。 ・ホームヘルパーの活用。 ・子どもを預かる支援。 ・子ども食堂。 ・学習支援ボランティア。 ・就労支援。
3	現状・課題	・乳幼児の養育のため就労が困難となっている受給者も多い。入所は就労者が優先されることや、利用できる保育所が遠方（受給者は自動車保有が原則認められない。自転車で送迎できない距離）に限られるなどあるほか、求職活動時においてもひとり親は採用時に敬遠される傾向がいまだにある。
	解決策	ひとり親の保育環境の整備が必要と思われる。
4	現状・課題	子どもの人数が増える分だけ保護費額も多くなるため、生活にとっても困ることはないと思われる。逆に、親が自分のために使い、子どもの教育（習い事）などにお金がまわっていないように見受けられる。申請当初から子ども全員と面談し、保護の仕組みを伝え、教育（習い事含む）を受けただけのお金を保護で受けており、それを親に要求できることを伝えた方が良いのではと思われる。また、親が1日就労せず家において、お金があることを子どもが気づき始める頃になると、親子間の問題が起きてきている。親の姿を見て反発もあれば、真似てしまい保護生活を選択する子も出てきてしまうことが問題と思われるが、解決策はまだ思いつかない。
	解決策	
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしていないと保育園に入れない。待機児童が多く、すぐに入れない。 ・子どもに障がいがあり、仕事に支障をきたし、辞めなければいけなくなる。
	解決策	
6	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親の賃金が低く、生活が不安定。 ・子育てしながら働ける職場づくりができていない。 ・子どもの教育の機会均等に課題が生まれている。
	解決策	

IV. 低所得などによる生活困窮者を支援する行政サービスについて、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

NO.	内容	
1	現状・課題	・サービスを知らない。
	解決策	・知る手段がない方への周知方法。つながりづくり。
2	現状・課題	・支援を必要とする方への情報が行き届いていない。
	解決策	・あらゆる方法でも情報発信が必要。
3	現状・課題	・生活保護や貸付制度、その他の困窮者支援制度の対象に該当しない方への対応（各種制度の狭間にある方への支援）。
	解決策	
4	現状・課題	・家を借りにくい。保証人が必要。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・特別養護老人ホームの拡充。 ・仕事付き高齢者住宅。

NO.	内容	
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・庁舎内ネットワークの整備 市役所内部でも手続きの際に複数の課の窓口案内されることが多く、同じ市役所でも必要な書類が多岐かつ重複している（保護受給証明書が住民票取得時や年金減免手続きにそれぞれ必要とか）。また、役所のほか年金事務所や保健所などでの手続きが必要なものも多く、サービスを利用するにしてもそれに対する手間が大きい（自身で手続きが理解できないケース、複数の庁舎を行き来できないケースも多い）。
	解決策	サブセンター、サテライトなど、複数の窓口を一元化できる整備が必要では。
6	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に生活が困窮した人と、自身が保護などに甘んじている人というため、行政サービス提供とばかりは言えないところがある ・カード決済を行い、購入履歴が管理できるようになれば、無駄遣いを防げる。
	解決策	
7	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活用できる制度について、申請しないと受けられないものが多く、対象とする生活困窮者に必要な情報が伝わっていない。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側が積極的情報提供（アウトリーチ）する姿勢を。
8	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・問題・課題に対応できる機会・機関がもっと多く必要である。問題・課題に気付く機能も必要。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関の連携が必要。

V. 低所得などによる生活困窮者を取り巻く地域の現状について、どのようなことが問題や課題になっていると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

NO.	内容	
1	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりが希薄化し孤立している（生活困窮になると、外に出て行けない方が多いと思われる）。 ・同じ地域に住む者同士での支援には限界がある（相談しにくい、知られたくないなど）。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での料理教室などを通じ、食料支援や人と人のコミュニケーションを高める。 ・相談支援などの情報が必要な人に伝わるよう工夫する。 ・生活困窮の現状や相談窓口などについて地域で共有する。
2	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や関係機関との情報の共有と見守り支援。
3	現状・課題	支援者がいない（ケースワーカー、民生委員、福祉課職員など複数の支援の実施者はいても、それらを取りまとめたり調整したりする主たる支援者（家族など）がいない）。解決策はわからない。
	解決策	
4	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理がうまくいかない、管理をする力がもともとない。たばこ、ギャンブル、お酒に逃げる人が多く、それにお金をつぎ込んでしまう。勉強していない、学歴がない、職歴がないことから自信がなく、社会に出ない。
	解決策	
5	現状・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会がなくなってきているので、地域で支えていく社会づくりが必要。
	解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・共生していく社会づくりに地域と行政などさまざまな機関の連携。

VI. 低所得などによる生活困窮者に対する支援のため、行政や社会福祉協議会では、どのような取り組みが大切だと思いますか。

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の充実（深刻な困窮状態に陥る前に早い段階で相談支援につなげる）。 ・生活困窮の現状把握。 ・地域、他機関（民間も含む）との連携。 ・個々の現状に見合った細やかな対応。 ・地域の方も参加できる支援活動などの取り組み。 ・相談支援の情報発信。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者自立支援制度の市民への周知と考えます。回覧板でチラシを1枚ずつ入れることも必要かもしれません。 ・一時生活支援事業。 ・家計改善支援事業の拡充。 ・学習支援事業。 ・庁舎内の連携。滞納水道料金、滞納市民税、滞納市営住宅費の督促状に困りごと相談窓口のチラシを入れ送付するなどの連携も可能だと考えます。支払いが多い多重債務の方への家計改善支援員との面談を入れ、債務整理など家計を改善することもできます。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・次の仕事、住居先をみつけるまでの一時的な就労、住居の提供が必要だと思う。もちろん期限付きで行う。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・連携をとり、どのようにすれば安心した生活が送れるようになるかを考えていく。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・細やかな支援。個々に応じた支援。それぞれの機関が連携した支援。

VII. 低所得などによる生活困窮者に対する支援のため、地域では、どのような取り組みが大切だと思いますか。

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人とのコミュニケーション（日頃から地域住民同士のつながりをつくっておく）。 ・地域でのつながりづくり（生活用品のフリーマーケットやほしい人と提供できる人をつなぐなど）。 ・個人情報の保護と開示の整理。 ・地域における福祉活動関係者の連携。 ・要支援者の情報が行政や社協などの支援機関につながる仕組みづくり。 ・困窮者の孤立化を防ぐ（気軽に相談し合える関係づくり）。 ・生活困窮の悩みを抱えている人（自分で情報を得ることが難しい人など）が地域や行政、社協などの関係機関などにつながる仕組みづくり。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者の早期把握や見守りの地域づくり。 ・地域内で就労ができるところはないか。 ・サポートやボランティア支援。 ・地域の中での孤立を防ぐ。定期カフェの開催や開催会場の案内。ゲートボール。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・低所得な人に地域住民を巻き込んでの援助ができるのか、その人の状況を周囲に知らせるのでしょうか？体の不自由な人、高齢者、母子家庭なら見守り、買い物支援などが思いつきますが、なかなか難しいかなと正直思います。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員さん、近隣の方の気配りなどが必要なのではないかと思います。どういう支援があるのかを広く知ってもらおうようにする。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が関わりあいをもって、住民から支援を考えて進めていく取り組み。

VIII. 現在の新型コロナウイルス感染の状況下において貴団体の活動に最も大きな影響を与えている事柄（例：相談や訪問の機会の減少、人手不足、経営状況の悪化 等）は何ですか。その上で今後、地域福祉活動の推進を進めるうえで取り入れるべき視点（考え方・行動）があればご記入ください。

NO.	内容	
1	影響 今後、地域福祉活動の推進を進めるうえで取り入れるべき視点	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスに関する業務の増加（貸付業務、感染防止対策）。 ・貸付を受けた世帯の中でも、慢性的に困窮に陥りつつある世帯への支援が必要。 ・地域での交流活動の実施が難しい。コロナ対策をしながらも地域でのつながりや支え合いを行えるような環境づくり、情報提供が必要。 ・進学費用などの捻出が困難になる世帯も出てくるのが予想されるため、世帯内で困窮が連鎖しないよう支援していく必要がある。
2	影響 今後、地域福祉活動の推進を進めるうえで取り入れるべき視点	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数の増加による支援の過密。 【地域福祉活動の推進を取り入れる視点】 ・適正な人員確保。 ・市が取り組んでいる食糧や生活物資の支援の継続。 ・回復後の生活相談の提案。 ・収入減による生活費不足の支援。 ・住居不安定者に対するアパート支援。 【福祉のまちづくり】 ・市民の方が相談に来られるように市報などで方向性を周知する必要を感じます。 ・給付金はもらって嬉しいですが、生きがいを感じられるまちづくりが必要です。 ・一人ひとりが、何が不安で、何を解決したら良いのか傾聴することが大事です。
3	その他「影響」についての回答	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問の拒否、受給者がマスクを購入できずマスク不着用者が多い。 ・相談の時期が集中することがあり、一人ひとりにきちんと向き合えないときがある。 ・訪問・面接の機会減少。 ・相談時間の減少や対応の減少。 ・失業者の増加に伴う、生活保護面談・申請者の増加（人手不足）。 ・相談員の疲弊感が増している。

●地域と行政が共に支えあい、すべての人が地域社会で安心して暮らすことができる「ここに住んでよかった。住み続けたい。」と思える「福祉のまちづくり」を進めていくため、太宰府市に対するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

NO.	内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期からの教育、支援、福祉、地域とのつながりを学び、子どもの頃から将来的なライフワークを学べると良い（自分の今の行動が年を重ねて自分に返ってくるということなど）。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ、人の目が行き届いていない人、世帯、場所がたくさん存在しています。たくさんの方々の家庭状況があり、たくさんの方が山積みです。一番は子どもの問題。保護費が子どものために使われず、満足にほしいものも買ってもらえず、習い事にも行けず、友だちと差があることに悩み、親が就労せず家にいるため学校で親の話ができないことに悩み、そのうち学校に行けなくなっています。叫び、助けを求めることができず、黙り、ただただ我慢している子ども。救ってあげられるなら、ぜひとも子どものための環境（福祉）づくりをしていただきたい。子どものときに保護を受けて育った子どもは、また保護で戻ってきています。悪の連鎖です。断ち切らなきゃいけないと思います。